

知財実務の未来：2027年における生成AI活用のトレンドと準備

2027年に向けて生成AIが知財業界をどう変えるか、その主要トレンドと実務者が今なすべき準備

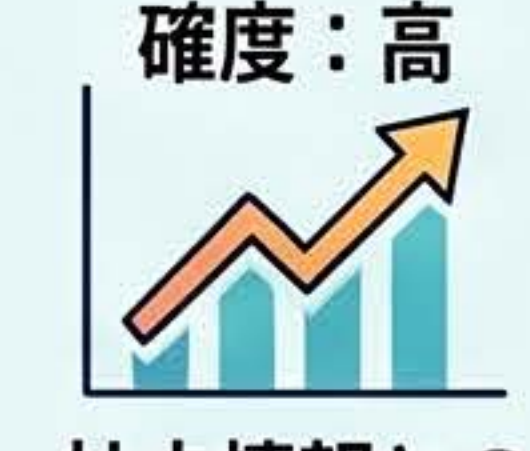
2027年に向けた3つの主要トレンド

業務の「エージェント化」

調査、比較表作成、起案などの複数工程をAIが連続して実行する運用が拡大します。

社内ナレッジとの高度な連携

過去の出願履歴や実験データ、不採用理由をAIが参照し、提案の実用性が飛躍的に向上します。

**確度：高**
社内情報との連携

専門家の役割が「作成」から「選別・判断」へ

定型的な下書き
定型的な下書きはAIに任せ、人は権利範囲の設計や事業リスクの判断に集中します。

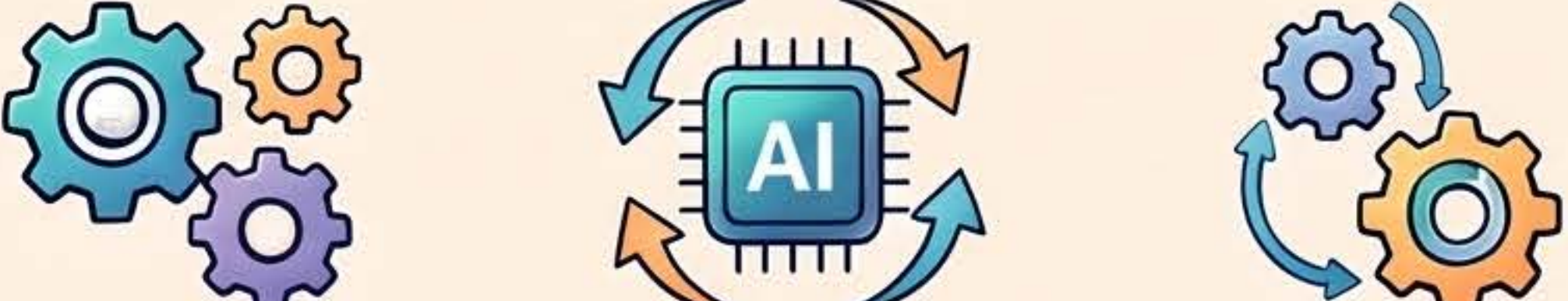
権利範囲の設計
範囲の設計
事業リスクの判断

2027年に向けた各領域の変化の確度

	確度
業務のエージェント化	 高
社内情報との連携	 高
品質と機密管理	 高

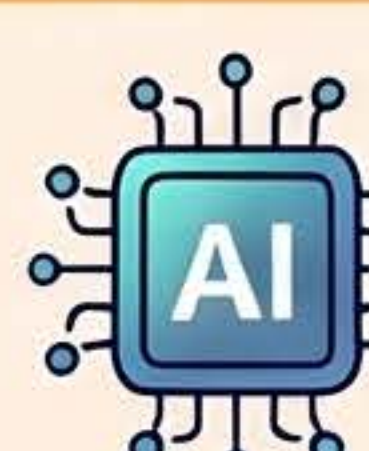
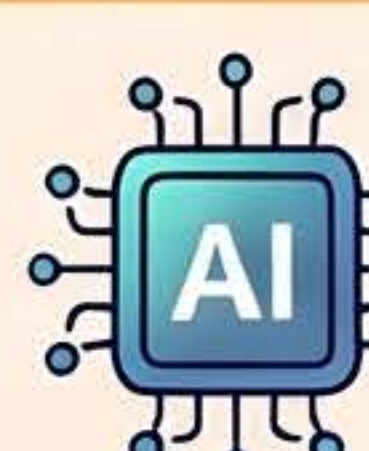
今から始めるべき3つの優先準備

一つの業務を選び、工程全体を再設計する

発明相談から出願要否の判断までなど、一連の流れをAI船曳で作り直します。

「判断理由」を再利用可能な形で蓄積する

採用・不採用や検索範囲の選択理由をデータ化し、AIが学習・参照できる状態にします。

採用理由
採用理由
採用理由
採用理由
採用理由
不採用理由
不採用理由
不採用理由
不採用理由
不採用理由

成果指標（KPI）を事業貢献に結びつける

AI利用回数
AI利用回数ではなく、判断の早期化・重要案件への時間配分を評価軸にします。

事業貢献
事業貢献